

【 復活のトロパリ 第8調 】

めぐみふかきしゅよ、なんぢはたかきより
 恵深主 爾 高

くだり、みっかのほうむりをうけて、
 降 三日 葬 受

われらをくるしみよりときたまえり、
 我等 苦 釋 給

わがいのちとふくかつなるしゅよ、こう
 我 生 命 復 活 主 光

えいはなんぢにきす。
 榮 爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使徒等 同座者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神智 役者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのたために、いのちをたもうせい
全世界 爲 生命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者 祈 給 え。

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成 聖 者 亞 使 徒 聖 我

くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんちははじめわがくににおいておの
爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外 來 者 知 れ ども、ハリストスの

ひかりとあたたかきをながし、なんちのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬 神 子 爲 あ し、かれらにか 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩 寵 與 ハリストスの 教 會 を 建

た り 、 い ま こ の き ょ う か い の た め に い の り
 今 此 教 會 爲 祈

た ま あ え 、 け だ し わ れ ら そ の し ょ し は な ん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾

ち に よ ぶ 、 わ が よ き ぼ く し ゃ よ 、 よ ろ こ
 呼 我 善 牧 者 慶

べ よ 。

【 断略の主日のコンダク 第6調 】

い ま も い つ う も よ よ に 、 ア ミ ン。
 今 何 時 世 世

え い ち を た ま い 、 ぜん ち を あ た う る し ゅ 、
 睿 智 賜 善 智 與 主

む ち の も の の き ょ う ど う し 師 、 ま づ し き も の の
 無 智 者 教 導 師 貧 者

ほ ご し ゃ た る し ゅ さ い よ 、 わ が こ こ ろ を か 堅
 保 護 者 主 宰 我 心

た め て さ と ら し め た ま え 、 ち ち の こ と ば
 悟 給 父 言

よ 、 な ん ち わ れ に こ と ば を あ た え た ま あ
 爾 我 言 與 給

え 、 け だ し み よ 、 わ が く ち は も だ さ ず し て
 蓋 視 我 口 黙

なんぢによぶ、じれんなるしゅよ、われおちい
爾呼 慈憐主 我 陥

りしものをあわれみたまあえ。
者 憐 給

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世
に、

アミン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
 聖 なる 神 聖 なる 勇 毅 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
 聖 なる 神 聖 なる 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 歸 今 何 時 世 世

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 聖 なる 神 聖 なる 勇

き 毅 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を
 聖 常 生 者 我 等 憐

あ わ れ め よ 。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 斷略の主日の 第8調 】

司祭) ^{つつし} 慎 ^き みて聴くべし、^{しゅうじん} 衆 ^{へいあん} 人に平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しん} の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{しゅなんぢら} プロキメン、^{かみ} 主 爾 ^{ちかい} 等の神に ^な 誓 ^{つくの} を作して 償 えよ、

しゅ なんぢら の かみに ちか いを な して つく の
主 爾 等 神 誓 作 償
え よ 、

誦經) ^{かみ} 神はイウデヤに知られ、^し 其名は ^{そのな} イズライリに ^{おお} 大 なり、

しゅ なんぢら の かみに ちか いを な して つく の
主 爾 等 神 誓 作 償
え よ 、

誦經) ^{しゅなんぢら} 主 爾 ^{かみ} 等の神に

ちか いを な して つく の え よ 、
誓 作 償

【 ^{アポストロス} 使徒經 112 端 ^{ロマ書} 13 章 11 節~14 章 4 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが ^{じん たつ} ロマ人に達する ^{しょ よみ} 書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹 ^き みて聴くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{いま} 今は我等が ^{はじ} 初めて ^{しん} 信ぜし ^{とき} 時に ^{くら} 較ぶれば、^{すくい} 救 は ^{さら} 更に我等に ^{ちか} 近し。^{よるす} 夜過ぎて ^{ひる} 晝

^{ちか} 邇づけり、^{ゆえ} 故に我等 ^{われら} 昏昧の ^{はじ} 行 ^{しん} を ^{とき} 除きて、^{くら} 光明の ^{すくい} 甲 ^{さら} を ^{われら} 衣るべし。^{ちか} 我等晝に ^{よるす} 在るが ^{ひる} 如
^{おこない} く、^{うるわ} 行 を ^{どうてつおよ} 美しくすべし、^{ちんめんこうしよくおよ} 饗饗 ^{じゃし} 及び ^{そうとうおよ} 沈湎 ^{しつと} 好色 及び ^{しつと} 邪修、^{しつと} 争闘 及び ^{しつと} 嫉妬すべから

ず。 ^{すなわちなんぢら} 乃 ^わ ^{しゅ} 爾 等は我が主 イイスス ^き ハリストスを衣よ、肉 體の ^{にくたい} 慮 ^{おもんばかり} を慾に變ずる勿
 れ。 ^{しん} 信の弱き者は、^{よわ} 意見を ^{もの} 詰らずして ^{いけん} 之を ^な 納れよ。 ^{これ} 蓋 或人は ^い 凡の物 ^{けだしあるひと} 食うべしと ^{およそ} 信
 じ、^{よわ} 弱き者は ^{もの} 野菜を ^{やさい} 食う。 ^{くら} 食う者は ^{くら} 食わざる者を ^{もの} 藐 ^{あなど} る勿れ、 ^{なか} 食わざる者は ^{くら} 食う者を
 議 ^ぎ する勿れ、 ^{なか} 蓋 神は ^{けだし} 彼を ^か 納れたり。 ^い 爾は何人にして ^{なんぢ} 他人の ^{なんびと} 僕を ^{たにん} 議するか、 ^{ぼく} 彼は ^ぎ 己の
 主 ^{しゅ} の前 ^{まえ} に ^た 立ち、 ^{あるい} 或 ^た は ^{かつ} 倒る。 ^か 且 ^た 彼は ^{けだし} 立てられん、 ^{これ} 蓋 神は ^た 之 ^{よく} を ^{おのれ} 立つるを能す。

(比較用 口語訳) 今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴樂と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。信仰の弱い者を受けいれなさい。ただ、意見を批評するためであってはならない。ある人は、何を食べてもさしつかえないと信じているが、弱い人は野菜だけを食べる。食べる者は食べない者を軽んじてはならず、食べない者も食べる者をさばいてはならない。神は彼を受けいれて下さったのであるから。他人の僕をさばくあなたは、いったい、何者であるか。彼が立つのも倒れるのも、その主人によるのである。しかし、彼は立つようになる。主は彼を立たせることができるからである。

【 アリルイヤ 断齋の主日の 第6調 】

司祭) ^{なんぢ} 爾 ^{へいあん} に平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しん} の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) ^{しじょうしゃ} 至上者よ、^{しゅ} 主を ^{さんえい} 讚榮し、^{なんぢ} 爾 ^な の名に ^{うた} 歌うは ^び 美なる ^{かな} 哉、

ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) ^{なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな} 爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、

ア リル イ ヤ 、 ア リル イ ヤ 、
ア リ ル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よるこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世々に、アミン。)

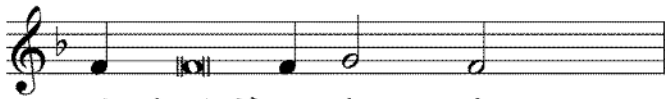
【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 マトフェイ福音書17端 6章14~21節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、

なんぢのし んにも 。
爾 神

司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ} マトフェイ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



は なんぢに き す 。
爾 歸

司祭) ^{つつし き も なんぢらひと そのあやまち ゆる なんぢら てん ちち なんぢら ゆる} 謹みて聴くべし、若し爾等人に其過を免さば、爾等の天の父は爾等にも免さ

^{も ひと そのあやまち ゆる なんぢら ちち なんぢら あやまち ゆる またなんぢら} ん、若し人に其過を免さずば、爾等の父も爾等に過を免さざらん。又爾等

^{ものいみ とき ぎぜんしゃ ごと うれ さま な なか けだしかれら そのものいみ ひと あらわ} 齋する時、偽善者の如く憂わしき容を爲す勿れ、蓋彼等は、其齋の人に顯れ

^{ため かおいろ そこな われまこと なんぢら つ かれら すで そのむくい う なんぢものいみ} ん為に、顔色を損う、我誠に爾等に語り、彼等は已に其賞を受く。爾齋す

^{とき こうべ あぶら おもて あら なんぢ ものいみ ひと あらわ ひそか ところ いま} る時、首に膏ぬり、面を洗え、爾の齋の人に顯れずして、隠なる處に在

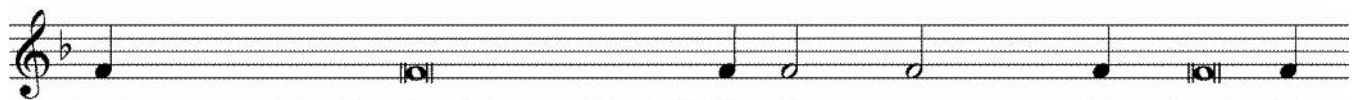
^{なんぢ ちち あらわ ため しか ひそか かんが なんぢ ちち あらわ なんぢ むく} す爾の父に顯れん爲なり、然らば隠なるを鑒みる爾の父は顯に爾に報いん。

^{なんぢら ため たから ち つ なか ここ しみ さび そこな ここ ぬすびとうが ぬす} 爾等の爲に財を地に積む勿れ、此處には蠹と銹と損い、此處には盗穿ちて竊む。

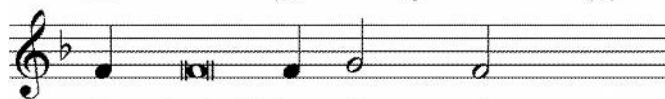
^{すなわちなんぢら ため たから てん つ かしこ しみ さび そこな かしこ ぬすびとうが ぬす} 乃爾等の爲に財を天に積み、彼處には蠹も銹も損わず、彼處には盗穿ちて竊

^{けだしなんぢら たから あ ところ なんぢら ころ あ} まず。蓋爾等の財の在る處には、爾等の心も在らん。

(比較用 口語訳) もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においてになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



は なんぢに き す 。
爾 歸

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ